

幼少時に於ける民族優越性の獲得

— 國民童話の價值 —

奈良女子高等師範學校主事 森川正雄

三條、岩倉、木戸、西郷諸公、續いて伊藤、山縣、乃木、東郷といふ様な文武の英才俊傑、また女性では野村望東尼や奥村五百子といふ様な獻身奉公の烈女たちを始として、最近六十七年、我が帝國の隆昌のために大小幾萬千の愛國者たちが、表に裏に、非常の活躍をしたのであつた。さて世間一般の人達はみな彼等の大人時代の輝かしい業績を讃仰することを知つては居るが、併し彼等の幼年時代のことを思ふものは少い。花の盛り、秋の實りは人の目に映り易いが、萌芽の時期、苗木のまきのことは特殊の人の間にのみ注意せられるものと見える。彼等偉人たちはみな悉く悪太郎時代を有し、飯事遊びの時代を有して居たのである。今こゝに彼等の幼年時代における國民童話の影響の如何様であつたかを推測して記して見る。

彼等は母の懷にあるまきに、又父兄師長の膝下にある時に多くの物語を聞かされたのである。彼等は桃太郎の話聞いては自己を桃太郎だと思ひなし、日本武人の勇氣が我が身のうちに奮ひ起るを感じた。猿蟹合戦を聞いては弱き正義者に味方して、強き不義者を打懲すこゝの俠氣に共鳴した。又、舌切雀の話を書いては、助けなき者を愛護し、其の不幸を憐み、之を慕ひ求め、又食らざるの寡慾を善いと思つた。また進んでは、天の岩戸の御神樂のこゝや、因幡の白兔や、龍宮城のお話や、八岐の大蛇や金の鴉の昔話をきいた。さうして太古の神々の御偉徳を御盛業を崇み仰いだ。又義経や、時宗や、正成や、秀吉なきの話を書いては武勇、愛國、誠忠、智略といふやうな父

祖傳來の民族精神の脈搏つを感じたのであつた。彼等は目を輝かし、耳をそばだて、息をひそめ、固唾を呑んだ。時には小さき胸の高鳴るを覚え、唇をかみ、眉をあげ、拳を強く握りしめてゐた。お話が済むと大きい息をした。それと共に再び自分達の小さい子供の世界に覺め返るやうに思つた。早く大きく成つて英雄的活躍をして見たいと願つたに相違ない。かくて彼等は年々共に是等の國民性を發揮せしめゆき、遂に實際社會に立つに及んで之を實現し得たのである。

すべて何れの國民たりとも、その國民性を獲得することに於て、決して俄に一時に之を勝ち得るものは有り得ない。個人の能力といふものは長年月の間に徐々に養成せられねばならぬからである。尤も、特殊の事情の下にあつては、技術の速成といふ如きことも行はれぬではない。併し、これまでも既に築かれたる一般的なる能力を基礎とし、資本として速成を行ふのである。此の基礎なき速成は、たゞへ外觀は完成に見えても、實際には效率乏しきものになりたることを免れない。況んや國民性といふが如き深奥の資質、日本魂といふが如き死生一如の膽力を中心とする國民性に至つては決して一朝一夕に養ひ得られるものではない。

今の幼稚園では如何なることが行はれて居るのであるか。何處の幼稚園でも幼児らは皆かの偉人英雄の幼少時代と同様に、日本固有の國民童話や歴史談を聞いてゐるに相違ない。今日の幼稚園児は又この上に新聞紙やラヂオによつて戦線の勇士の武勳や銃後の守の奉公美談を豊富に傳へられてゐる。其ればかりではない、今日の幼児たちは家庭の内でも外でも、非常時における國民緊張の空氣を呼吸してゐる。かやうに環境や材料の上から言へば今の幼児たちは偉人英雄たちの幼少時代よりも遙に多くを恵まれて居る言ふべきである。然り、實に今日は國民性の涵養に於て絶好の時期だと言はねばならぬ。

さて又、此に最後に、保育者自身の側に於て深い反省を要する事柄あることを忘れてはならぬ。それは何事を指すかと言ふに、此の恵まれたる良機會をもちながら、果して能く、今の保育者たちが彼の偉人傑士の父母長上らと同様に感激と教化を其の幼児たちに與へ得るかといふ點である。